

平成23年度沖縄群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

5月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	20	40
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	30	40	20

(平成23年4月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	23.8	26.4	21.5	233.8	149.5

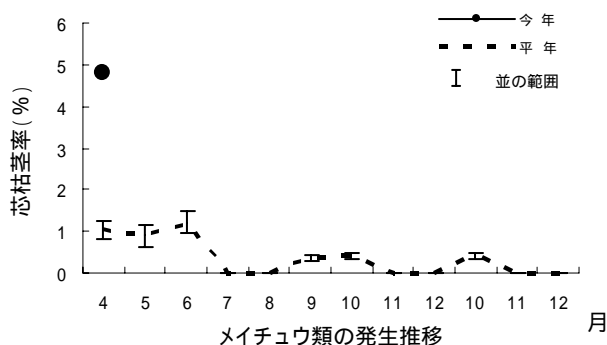
(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

5月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

メイチュウ類の防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、芯枯茎率は4.8%(前年1.1%、平年1.0%)と平年に比べ高かった。
- b ふ化した幼虫は、苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせる。
- c 有効分けつ期の芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。



2 かんきつ(シークワサー)

ミカンキジラミの防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、成虫密度は5.5頭(前月0.8頭)で、幼虫密度は0頭(前月5.7頭)であった。
- b 好適寄主のひとつであるゲッキツでの成虫密度は8.6頭(前月2.0頭)で、幼虫密度は11.0頭(前月23.9頭)であった。
- c 本種はカンキツグリーニング病の媒介虫であり、春は媒介時期であることから薬剤による防除を徹底する。
- d カンキツグリーニング病の拡大を防ぐため、本種の寄生したかんきつやゲッキツの移動を自粛する。

3 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- b 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 果実肥大期は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

灰色かび病の防除対策

- a 4月中旬の調査の結果、一部園地において発生が確認された。
- b 罹病した部位はビニール袋に入れて、速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 通風採光をよくする。
- d 早期発見・早期防除に努める。

チャノキロアザミウマの防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0.1頭未満、平年0.5頭)であった。
- b 着果期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- c 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.4頭(前年0.2頭、平年0.2頭)であった。
- b 今後気温の上昇に伴い増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。

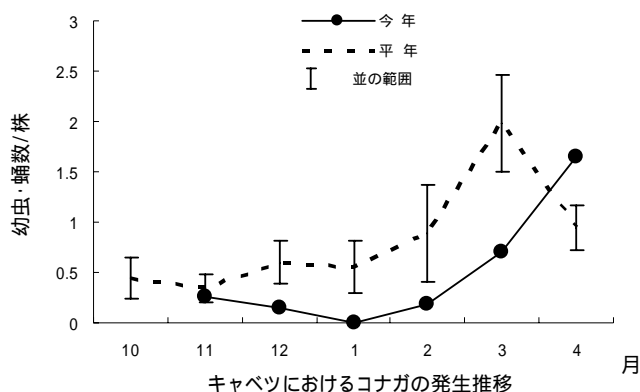
4 キャベツ

(1) コナガ

発生程度 : 多

予報の根拠

- a 4月下旬の調査の結果、株当たり幼虫・蛹数は1.6頭(前年1.8頭、平年0.9頭)と平年より多かった。
- b 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年並又は少ない確率が40%で、本種の発生が助長されやすいと考えられる。



< 防除上注意すべき事項 >

- a 圃場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残渣処理を徹底し圃場衛生に努める。
- b 薬剤散布は低密度時が効果的であるので、多発する前に散布を行う。
- c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

5 レタス

アブラムシ類の防除対策

- 4月下旬の調査の結果、一部圃場でモモアカアブラムシの多発生が見られた。
- 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年並又は少ない確率が40%で、発生が助長されやすいと考えられる。
- 多発すると排泄物に由来する汚れが生じ、品質の低下を招くことがある。
- 葉裏に多く寄生するので、葉裏をよく観察し早期防除に努める。

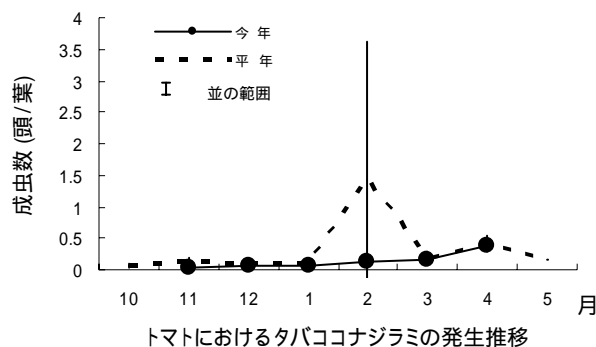
6 トマト

(1) タバココナジラミ

発生程度 : 並

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、成虫数は0.38頭(平年0.41頭)と平年並だった。



< 防除上注意すべき事項 >

- ハウス内への飛来侵入防止に努め、黄色粘着テープ等による早期発見・早期防除に努める。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいため、同系統薬剤の連用を避ける。

トマト黄化葉巻病(TYLCCV)の防除対策

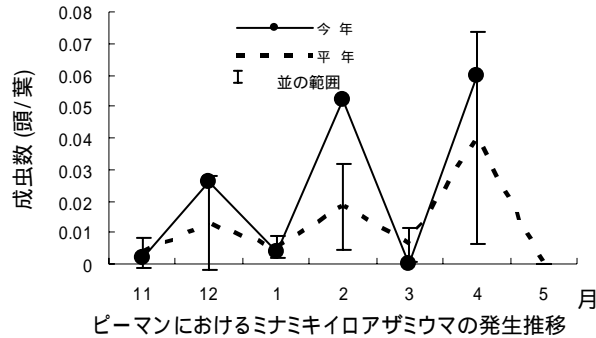
- 4月下旬の調査の結果、発病株率は0.1%(例年2.3%)、発生圃場率は43%であった。また、一部施設で発生が多かった。
- 本病はタバココナジラミによって媒介されるので、本虫の防除を徹底する。
- 施設内や周辺の野生生えトマトや雑草を徹底的に除去する。
- 栽培終了後はタバココナジラミを薬剤防除したうえでトマトを抜き取り、施設を1~2週間密閉して蒸し込み処理を行う。

7 ピーマン

(1) ミナキイロアザミウマ

発生程度 : 並
予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.06頭(平年0.04頭)と平年並だった。
- 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並の確率が40%と予想されており、今後の気温上昇に伴い発生が助長されると考えられる。



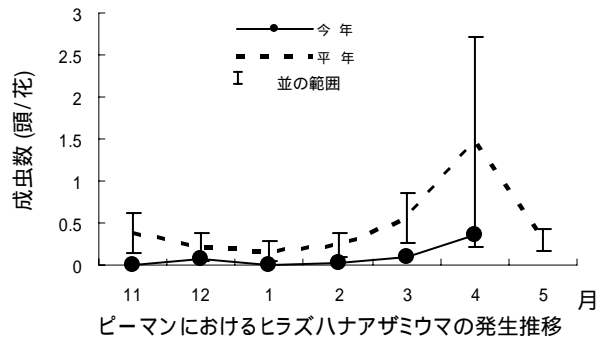
< 防除上注意すべき事項 >

- 本虫はウイルス病の媒介虫であるので、発生には注意する。
- 施設の出入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。
- 栽培終了後に蒸しこみ処理を行い、施設外への分散を防止する。

(2) ヒラズハナアザミウマ

発生程度 : 並
予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、花当たり成虫数は0.4頭(平年1.5頭)と平年並だった。
- 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年並の確率が40%と予想されており、今後の気温上昇に伴い発生が助長されると考えられる。



< 防除上注意すべき事項 >

- 施設の出入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。
- 多発すると防除が困難になるため、早期発見・早期防除に努める。